

スタサプ活用推進委員会を設置し、運用課題を「見える化」。コースごとの最適活用を目指す

尾道中学校・高校 (広島・私立)

テーマ ▶ 生徒の学力に合わせたスタディサプリ活用

目的 ▶ 基礎学力の定着・個別最適学習・教員の働き方改革

スタディサプリ活用法

●スタディサプリ活用推進委員会

進学支援部部長、学年主任、工業科主任、5教科主任が集まり、学期ごとに実施。下は、委員会の意見から誕生した「スタディサプリ通信」。コースごとに毎月の学習目標がわかりやすく記されている。

ダウンロード可

「最難関」「難関」コースは、到達度テストの連動課題に取り組んだ日程を書き入れるフォーマット。

ダウンロード可

「総合進学」「スポーツ」コースは、教科担任がどんな目的で課題配信したか、メッセージが書かれている。

●生徒のやる気UP「スタサプBEST10」

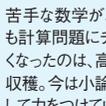
中学校で実施して好評だったBEST10発表を高校でも今年度から実施。「中高一貫でスタサプ活用に取り組んでいます」と、中学校教諭の大胡満裕先生。

●生徒たちのスタディサプリ活用法



国公立大学志望なので、スタサプは苦手の数学対策に使って使えました。動画でポイントがわかりやすいので、今は物理基礎などの基礎復習に活用中です。

(最難関コース3年・宮崎 綾さん)



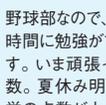
苦手の数学が、スタサプで何度も計算問題にチャレンジして楽しくなったのは、高校時代の大きな収穫。今は小論文の講義を視聴して力をつけています。

(難関コース3年・廻野未来さん)



尾道中学時代から使っているので、わからない点はスタサプで確認する習慣ができました。到達度テストの連動課題で中学の総復習もしています。

(総合進学コース1年・矢野雄大さん)



野球部なので、遠征先でも隙間時間に勉強ができるのがいいです。いま頑張っているのは英・数。夏休み明けのテストで、数学の点数が上がりました!

(スポーツコース1年・武内陽都さん)

取材・文／丸山佳子

課題

働き方改革の中、
コースごとに希望が異なる
生徒の学力を伸ばすには?

尾道中学校・高校は、尾道市唯一の私立学校。文武両道のスポーツ強豪校としても知られ、普通科に「最難関コース」「難関コース」「総合進学コース」「スポーツコース」の4コース、工業科に「機械科」「電気科」を有している。

「教員の働き方改革やICT化を進める中で、コースごとに学力や希望が異なる生徒のフォロー体制をいかに構築するか?それが当校の課題でした。『最難関』と『難関』コースにタブレット導入が決まったのは2021年。このとき、模試は結果を見るだけで終わっている。ならば『スタディサプリ』の到達度テストを実施し、生徒に必要な学習計画を立てて課題配信を行ってはどうか?との意見が出て、1年間実施したところ効果がありました。そこで翌年、全校導入。今、これまでにない改革が進んでいます」と、教頭の新田晃弘先生。

活用

課題の進め方や励ましを
入れた「スタサプ通信」で、
コース別学習目的を明確化

しかし、全校導入ですぐに効果が出たわけではなかった。「従来のやり方が良い教員もいますから、足並みが揃わない。そこで全校導入2年目、活用目的を『見える化』するために『スタディサプリ活用推進委員会』を発足させました。課題を洗い出し、3つのフェーズに分けて活用方法を考えたことが良かったと思います」

そう話すのは、委員会の立ち上げを提案した進学支援部部長の松崎諭先生だ。

フェーズ1は「教員に指示された課題を校内で確実に進めてもらう段階」で、主に「機械科」「電気科」の生徒たち。

フェーズ2は「教員に指示された課題を校内・校外で確実に進めてもらう段階」で、主に「総合進学」「スポーツ」の生徒たち。

フェーズ3は「教員の指導なしでやるべきことが自走できている段階」で、主に「最難関」「難関」の生徒たち。

学期ごとの委員会では、活用状況を見える化するために、教員にアンケートを実施。それを基に討議をするという。

「例えば、『最難関』『難関』では、1学期に到達度テストからの連動課題を生徒に配信したが、計画通りにできたか?『総合進学』『スポーツ』では、月曜日に授業の復習課題を配信したが、実施できたか?『機械科』

『電気科』では、LHRや学びの基礎の授業時間に課題配信をしたが、取り組めたか?成功事例を共有して活用するだけでなく、委員会では教員が抱えている活用の問題点や疑問点を解決していくことを大切に考えています。

1学期後の委員会では、「何のためにこの課題をやるのか、目的をはっきりさせたほうがいい」という意見が出て、2学期からは生徒たちに学習目標を書き込んだ『スタディサプリ通信』を配布することにしました。これは、生徒にも好評です。教員が一丸となり、各コースの生徒に寄り添う、本校独自のスタサプ活用ができるという一歩を踏み出しています」と松崎先生。

1学期後の委員会では、「何のためにこの課題をやるのか、目的をはっきりさせたほうがいい」という意見が出て、2学期からは生徒たちに学習目標を書き込んだ『スタディサプリ通信』を配布することにしました。これは、生徒にも好評です。教員が一丸となり、各コースの生徒に寄り添う、本校独自のスタサプ活用ができるという一歩を踏み出しています」と松崎先生。



写真左から
進学支援部部長
松崎 諭先生(地歴公民)
教頭
新田晃弘先生(保健体育)
教育支援部部長(中学校)
おおえへす
大 胡 満裕先生(数学)

School Data

創立1956年／普通科・工業科(共学)生徒数691人(男子492人、女子199人)進路状況(2024年3月実績)大学129人、短大7人、専門学校等73人、就職53人、その他7人